

こ た ま 愛知県議会議員 樹神義和

誰もが魅力を実感できる“愛知”を目指して!!

県政レポート
No.45
(発行：2022年8月)

発行元：樹神義和事務所

〒473-0935 豊田市大島町前畑1-1

TEL：0565-52-7876 FAX：0565-52-7928

URL：http://www.kotama.net/

新たな課題に直面しつつも 安心して生活できる社会の実現へ

2年半以上に亘る新型コロナウイルスの脅威に加え、コロナ禍での急激な物価上昇など皆様の生活が脅かされておりますが、様々な課題に対し先ずは安心・安全の確保を最優先に取り組んでまいります。

また、レポート4頁に記載の通り、愛知県は本年11月に県政150周年の大きな節目を迎えますが、引き続き新型コロナウイルス感染症の克服に向けて全県一丸となって取り組むとともに、ジブリパークやアジア競技大会などのビッグプロジェクトを最大限に活かしつつ、本県の更なる発展に努めてまいりますので、変わらぬご指導・ご支援をお願い申し上げます。



愛知県政トピックス①

「あいち交通ビジョン」が 新たに策定される

愛知県ではこれまで「あいち公共交通ビジョン(2017年策定)」に基づき、効率的で利便性の高い総合的な公共交通ネットワークの構築に取り組み、私は昨年度所属していた建設委員会において、その取り組み状況等を確認してまいりましたが、計画期間を満了したことから、新たに「あいち交通ビジョン」が策定されました。

なお、今回のビジョンの特徴として、自動運転やMaaS、AIを活用したデマンド交通などの新しい輸送サービスが進展する中、鉄道・バスに代表される従来の「公共交通」だけではなく、これらの新しい輸送サービスの導入や連携を積極的に行うなど、地域における輸送資源を総動員し、移動環境を良くしていくことを目指し、**ビジョンの名称が「あいち公共交通ビジョン」から「あいち交通ビジョン」と改められて**います。

また、人口減少・少子高齢化が本格化する中、新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通を取り巻く環境は一層厳しさを増していることから、今回のビジョンでは県民生活を支える地域の足を「まもる」取り組みを施策の一番に掲げており、今後も本ビジョンの推進に向け、取り組み状況をチェック・フォローしてまいります。

ビジョンが目指すべき姿

危機を乗り越え、輝く未来へつなぐあいちの交通 ～モビリティ先進県を目指して～

施策の方向性 目指すべき姿の実現に向け、検討の視点を踏まえ、以下の5つの取り組むべき施策の方向性を定め、取り組みを推進していく。

持続可能な交通ネットワーク	1 まもる	地域の安全な移動手段を将来にわたって確保・維持し、県民生活を支える地域の足を「まもる」取り組みを進めます。
利便性の高い交通サービス	2 たかめる	リニア中央新幹線の開業効果を活かし、国際競争力を強化し、地域の活力を「たかめる」取り組みを進めます。
愛知の強みを活かした交通とまちづくり	3 りきつける	本県の活性化につながる国内外からの観光客を「りきつける」取り組みを進めます。
新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた今後の公共交通のあり方	4 つなぐ	魅力にあふれ、快適に暮らすことのできるまちづくりに向け、人とまちを「つなぐ」取り組みを進めます。
	5 へらす	脱炭素社会の実現を目指し、環境負荷を「へらす」取り組みを進めます。

公共交通施策に関する質問のねらい

現在、我が国の交通政策は大きな岐路に立たされており、大都市部では交通サービスが多様化し、利便性の向上が図られる一方、地方部では人口減少等を背景として、交通サービスの維持・確保が困難となる地域が増加している。

また、直近では新型コロナウイルスの感染拡大に伴い利用者は激減しており、更にテレワーク等の新しい生活様式が社会に定着する事により、感染拡大以前の交通需要には戻らない可能性も予測されていることから、公共交通の維持・充実に向けに質問・提言を行う。



建設委員会の開催風景

主な質問① 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う公共交通への影響について

Q 少子高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症の拡大により、交通事業者はかなり厳しい経営実態にあると思われるが、公共交通の輸送人員は現状どのように推移しているのか?

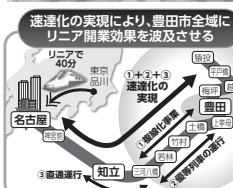
都市・交通局 ここ数年の本県における公共交通の輸送人員は、堅調な通勤・通学需要や観光需要等を背景に、鉄道、乗合バスについては微増傾向にある一方、タクシーについては運転手不足に伴う車両数の削減等を背景に減少傾向で推移していたが、新型コロナウイルスの影響を受けた昨年度の輸送人員を見ると、鉄道で前年度と比較して約6割〜7割程度の輸送人員となっており、乗合バス・タクシーは運輸収入ベースで約5割〜7割程度となっている。

また、ポストコロナ時代においても通勤や移動のあり方の変容などにより、以前の水準まで需要が回復することは期待できないとの声もあがっており、交通事業者の収益が悪化し投資余力も減退する中で、いかにして中長期的にわたって地域公共交通を確保・維持していくかが喫緊かつ最大の課題であると認識しており、引き続き事業者への経費補助や観光・ビジネスの交流促進に資する交通ネットワークの充実などを推進していく。



主な質問② リニア中央新幹線開業に向けた公共交通の利便性向上について

Q 2027年度のリニア中央新幹線開業に向け、現行の「あいち公共交通ビジョン」では名古屋駅の乗継利便性向上や名古屋駅〜豊田市駅の速達化を掲げているが、現在の進捗状況は?



都市・交通局 名古屋駅は国内有数のターミナル駅であるが、乗換が判り難い駅とも言われており、誰もがスムーズでスピーディーに乗換可能となるよう、名古屋駅など連携して「スーパーターミナル化」に向けこれまで整備を行ってきており、今後もしっかりと取り組んでいく。

また、名古屋駅〜豊田市駅間の速達化については、名古屋駅から40分交通圏拡大に向け、目指すべき重要な事項であると認識しており、現在は名鉄本線と名鉄三河線の直通運転に寄与する知立駅付近での連続立体交差事業を鋭意進めている。

さらに、速達化に向けては名鉄三河線の複線化も重要であると考えており、現在は豊田市により若林駅付近において連続立体交差事業が進められているほか、豊田市及び名古屋鉄道において、路線区間内での平面複線化などの検討・協議が行われてきたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点では具体的な議論を先送りせざるを得ない状況にあると聞いているが、リニアインパクトを活かせる公共交通整備に向け、引き続き県としても取り組んでいく。

本県においても、次期「あいち公共交通ビジョン」が今年度内に策定予定であることから、引き続き公共交通の維持・充実に向けに提言してまいります。



樹神委員

▲昨年度の建設委員会での質問内容

令和4年5月臨時議会&6月定例議会 コロナ禍での安心・安全の確保に向けて

議案

5月27日の5月臨時議会、更には6月17日～7月4日までの会期で6月定例議会が開催され、新型コロナウイルス感染症緊急対策や明治用水頭首工の漏水に伴う緊急対策を含む「一般会計補正予算案」を中心に審議し、全ての議案を可決承認しました。

主な議案

新型コロナウイルス感染症緊急対策(予算)について

新型コロナウイルス感染症の克服に向けて、引き続きオール愛知で一丸となって取り組みを進めるため、60歳以上の方と18歳以上の基礎疾患を有する方等を対象としたワクチンの4回目接種を推し進めると同時に、コロナ禍における原油価格・物価高騰等総合緊急対策など切れ目なく対策が行えるよう、令和4年度に入って総額2,259億円(内、5月臨時議会&6月定例議会では298億円)を可決しました。なお、感染の急増や経済の急変に対応し、臨時・緊急に実施すべき対策については、状況に応じて今後も機動的に対応してまいります。

補正予算の主な内容

1 感染拡大防止や医療面での対策

感染拡大防止に向けた施策や医療提供体制の更なる強化のための取り組みを実施

- ワクチン接種支援事業費
- 自宅療養者・宿泊療養者医療費補助金 等



2 県民生活への対策

県民生活への影響を最小限に抑えるため、様々な側面から対策を実施

- 子育て世帯生活支援特別給付金支給費
- 私立学校経常費補助金(学校給食費への補助等) 等



3 経済対策

企業等の経済活動への影響を最小限に抑えるとともに、経済活動の回復や強靱な経済構造の構築に対する支援策を展開

- 貨物自動車運送事業者燃料価格高騰対策支援金
- 経済環境適応資金融資信用保証料補助金 等



(参考) 新型コロナウイルス感染症対策予算額

		予算額
令和元年度		20億円
令和2年度		4,519億円
令和3年度		6,512億円
令和4年度	当初予算	1,920億円
	追加補正	41億円
	5月補正	144億円
	6月補正	154億円
合 計		1兆3,310億円

代表質問

6月定例議会では自由民主党・新政あいちの2会派が代表質問を行い、新政あいち県議団からは総務会長の福田喜夫議員(日進市及び愛知郡選出・2期)が登壇し、直面する県政諸課題について質問を行いました。

主な質問

明治用水頭首工の大規模漏水について

Q 明治用水頭首工での大規模漏水の発生時から現在に至るまで、県の危機管理対応はどうであったのか?

大村知事 答 弁 5月17日に明治用水頭首工での大規模漏水の発生以降、東海農政局へ情報連絡員を派遣し、円滑な情報の共有化を図るとともに、明治用水土地改良区へは地区内河川等からのポンプ取水やブロック通水などの実施に向け、職員を派遣し支援している。また、工業用水に関しては頭首工の状況を常時把握しながら、浄水場での取水及び配水量の監視・調整や、受水事業所への情報提供を行う他、緊急時の臨時給水体制を整えている。

県としては、土地改良区や市町が実施する農業用水を確保する取り組みや、影響を受けた稲作農家の営農再開に必要な農業資材の経費への支援など、今後も県民生活や産業活動への影響を最小限に留めるための対策にしっかりと取り組むとともに、水の需要期に向けて用水を安定確保できるよう関係機関と連携していく。



答弁する大村知事

なお、明治用水頭首工の漏水に関する緊急対策事業費として、約11億円の補正予算も6月定例議会にて可決しました。

委員会

今年度は愛知県議会内の「警察委員会」と「安全・安心対策特別委員会」に所属する事となり、6月定例議会の「警察委員会」では、盗難手口が更に高度化する中での愛知県内の自動車盗の現状と今後の対策について質問を行いました。

愛知県内の自動車盗の実態



県内自動車盗の認知件数は平成15年の約1万件をピークとして、令和2年は500件にまで減少したものの、昨年は増加に転じ745件となっている。

また、本年も増加傾向は継続しており、ランドクルーザー、レクサスLX及びプリウスの3種類が被害全体の5割以上を占めており、組織的な自動車盗グループが国内外で需要の高い特定の車種を狙って犯行を繰り返しているものと考えられ、5月末現在の認知件数は380件で、昨年同期と比較しても増加している。

主な質問①

自動車盗の手口の変遷について

Q イモビライザの装備など防犯対策が進む中、盗難の手口はどのように変遷しているのか?

愛知県警察 答 弁 平成10年代は工具などを使用してエンジンを始動させる手口が主流で、イモビライザの普及によりこれら被害は大幅に減少したが、平成20年代に入るとイモビライザの機能を無効化する「イモビカッター」と呼ばれる電子的な犯行ツールが登場し、再び認知件数が増加傾向を示した。

その後、条例による犯行ツールの所持の規制や被疑者の検挙対策等を推進し、また、自動車メーカーによる犯行ツール対策等も進んだことで認知件数が減少傾向となったが、スマートキーシステムを悪用する「リレーアタック」と呼ばれる手口が現れ、最近では制御システムに侵入してドアロックを解錠し、エンジンを始動させる「CANインベーター」と呼ばれる電子的な犯行ツールによって、特定の高級車などを狙う犯行が増加している。



樹神

警察委員会の開催風景

主な質問②

自動車盗の未然防止対策について

Q 愛車を窃盗グループから守る取り組みは今後も重要と考えるが、自動車盗の未然防止対策として今後どのように取り組んでいくのか?

愛知県警察 答 弁 自動車盗の未然防止対策として、ユーザーへの啓発や自動車関連団体との連携・地域の防犯力を向上させる取り組み等を推進している。

ユーザーへの啓発としては、ハンドルロック等の車両対策と防犯カメラ設置等の駐車場対策を複数組み合わせるよう呼び掛けており、また、自動車関連団体との連携では「自動車関連窃盗情報報奨金制度」を運用しており、本年4月からは報奨金を1万円から10万円へと増額したが、同制度の更なる周知を図っていく。

また、地域の防犯力を向上させる取り組みとしては、自治体等と連携して犯罪の発生が懸念される場所等への防犯カメラの設置に関する助言等を行っており、今後も未然防止に向け各種対策を推進していく。

主な質問③

自動車盗の検挙対策について

Q 自動車盗の被害を減らすためには、悪質な窃盗グループの壊滅に向けた検挙対策も重要であるが、今後どのように取り組んでいくのか?

愛知県警察 答 弁 県警察においては、実際に自動車盗を盗む実行犯・自動車盗グループ構成員の検挙はもとより、盗難自動車の解体ヤードなどグループの犯行を助長する犯罪インフラの摘発に至るまで、組織的な犯罪グループの全容を解明し、壊滅するための突き上げ捜査を重点的に実施しており、引き続き、総力を挙げ自動車盗の犯人検挙はもちろんのこと、組織的な犯罪グループの壊滅に向けて全力で取り組んでいく。

愛知県は他県に比べて新車の普及スピードが速く、更には道路交通ネットワークが充実しているため犯人が逃げやすい環境にあることから、窃盗グループに狙われやすいため、今後も自動車盗対策に全力で取り組んでいただくよう要望しました。



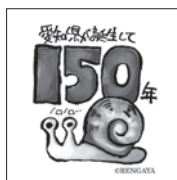
樹神 委員

今年、愛知県は県政150周年を迎えます。

1872(明治5)年に現在の愛知県が誕生してから本年11月27日をもって150周年を迎えることから、シンボルとなるロゴマーク(スタジオジブリプロデューサー鈴木敏夫氏制作)が作成されるとともに、愛知の将来の発展を牽引する象徴的なプロジェクト(6事業)が「県政150周年記念事業」として選定されました。

特に11月開園予定のジブリパークの「ジブリの大倉庫」は、大きなものから小さなものまでジブリ作品の展示物が詰め込まれた屋内施設であり、ロボット兵にネコバス、更には作品の秘密に触れる展示まで、お楽しみがいっぱいとのことですのでご期待ください。

(なお、ジブリパークのチケットはすべて
(日時指定の予約制なのでご注意ください。))



▲いこまいまい



▲あいちゅん

県政150周年記念事業

1	ジブリパーク	愛知万博の理念を次世代へ継承するため、愛・地球博記念公園にジブリパーク(5エリア)を整備。その内の「ジブリの大倉庫」エリアをはじめ3エリアは本年11月に開園予定。
2	国際芸術祭「あいち2022」	あいちトリエンナーレに替わる国内最大規模の国際芸術祭の一つであり、本年7月30日～10月10日までの会期で開催。
3	ステーションAi	スタートアップの創出・育成や地域企業とのオープンイノベーションを促進する支援拠点「STATION Ai」を整備。2024年10月オープン予定で、ソフトバンクが代表を務める企業が整備・運営を担う。
4	愛知県新体育館	現在の体育館は老朽化とともに、機能等が国際水準を満たしていないため、2026年のアジア競技大会に利用できるよう整備。2025年夏オープン予定で、NTTドコモ等が参画する企業が整備・運営を担う。
5	愛知県基幹的広域防災拠点	大規模災害時に全国からの物資等を円滑に受け入れ、被災現場や地域の防災拠点に迅速かつ的確に供給する拠点を県営名古屋空港隣接地に整備。平常時機能については「公園」「消防学校」も計画。
6	愛知県畜産総合センター種鶏場	名古屋コーチンの種鶏を供給する全国唯一の増殖機関で、名古屋コーチン原種鶏を維持し、品質向上に努めながら生産者に優良なひなを供給できる体制を強化するため、安城市から小牧市に移転。

主な活動内容 2022.4～6



4月16日 豊田市戦没者 春のみたま祭に出席



5月28日 国道153号伊勢神改良 新伊勢神トンネル(仮称)着工式に出席



5月30日 愛知県名誉県民 (故豊田喜一郎氏・故盛田昭夫氏) 顕彰式に出席



6月12日 豊田市消防団警防技術大会に出席



6月18日 食育推進全国大会inあいち 開会式に出席



6月25日 連合愛知豊田地域協議会 結成30周年記念式典に出席

『こたま 義和』に対するご意見・ご要望をお待ちしております。
また、ホームページにて日頃の活動内容をタイムリーにご紹介させていただきます。是非一度アクセスしてください。

こたま 豊田市

<http://www.kotama.net/>

検索



Facebookでは更に詳細な活動報告をさせていただきますので、是非フォローをお願いします。

